

フラワーガーデン



園芸総合センター
今出来 光志

フジとモミジ

○はじめに

花木栽培では、枝を自由に配置して樹形を作れます。また、毎年、開花、新緑、紅葉等が見られ、幹の年輪と合わせて趣を味わえます。日本にも自生するフジとモミジの鉢植え栽培について説明します。

一 フジ

鉢植えの場合、花房が鉢や鉢土に触れぬように、大型の木以外は、斜幹や文人木風などに仕立てます。



▲図1 文人木風(右)と半懸崖(左)仕立

花房の短い種類は、半懸崖仕立て等にもできます。

(一) 苗木の準備

① 品種を入手するならば、花付きの良い「野田一歳藤」、

「カピタンフジ」、「ジャコウフジ」等の接ぎ木苗があります。

こぶ等の病害や削り跡のない健全なもので、太枝・太根を切り詰めていないものを選びましょう。

② 接ぎ木苗を作るなら

今月、熟した種子をすぐに、赤玉土や川砂に筋まきし、薄めに覆土します。発芽後は肥培管理し、

一年毎に掘り上げて根巻きを行い、三年後に鉢上げして台木にします。

三月中旬～四月中旬頃に、目的の品種を切り接ぎできます。

③ さし木苗を作るなら

三月上旬～中旬に熟枝を、一穂木に二～三芽付けて十～十五cmの長さに切り、発根促進剤を付けて二分の一のところまで挿し、日当たりの良い所に置きます。小品盆栽の場合は、あらかじめ五～六月に針金をかけて曲付けした穂木を、三～六cmに切って挿します。

発根直後は根を傷めたり、切らないように、特に慎重に扱います。

(二) 鉢と用土の準備

鉢の大きさは、鉢の高さと直径

の合計が木の高さになるのが一つの目安です。用土は、赤玉土六、荒木田土三、腐葉土一の割合で混合したもの等を用います。

小品盆栽の場合、青磁の深鉢を仕上げに用います。用土は二～三mmの赤玉土七、桐生砂二、腐葉土一の割合で混合して用います。

(三) 植え付け

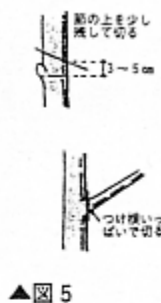
鉢植え栽培の場合は図二のように、長い根は巻いて鉢に植えます。寒さの厳しい地域や、小品盆栽は、三月に植えます。ただし、用土が悪くて生育不良だった鉢は、今月に落葉後、すぐ植え替えます。小品盆栽では、挿し木苗の根を図三のように、三分の一程度切り詰めて素焼きの浅鉢で仕立てます。



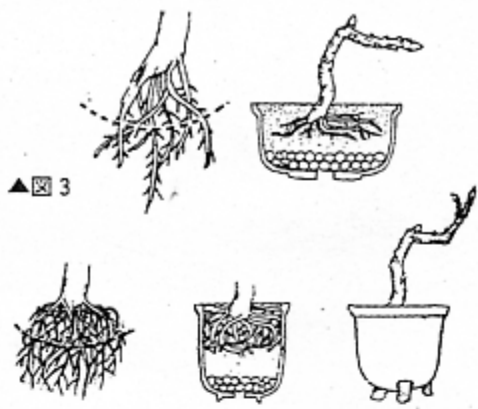
▲図2

翌年、根を二分の一程度切り詰め図四のように鑑賞鉢に植えます。**四剪定**

今年、伸ばした枝の基部に付いた花芽を、三〜五芽を基準に配置よく残すように剪定します。枝切りの基本は図五の要領で行います。切り口には癒合剤を塗っておきます。植え付け時の剪定は、枝をやや長目に残しておきます。



▲図5



▲図3

▲図4

二 モミジ

鉢植えでは、模様木(図七)、石付き等、様々に仕立てられます。

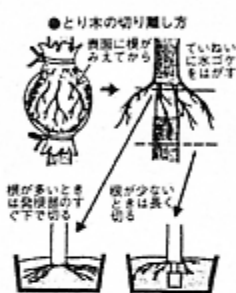
(一) 苗木の準備

① 品種を入手するなら

葉の色や形、枝垂れ性か否か等を選びます。また、増殖する際に、取り木等がし易い品種が便利です。太幹で根鉢が大きい苗木を入手し、根巻きをとかずに仮植えし、

② 取り木苗を作るなら

小品盆栽に仕立てるなら、将来構想を考えて取り木位置を決めます。品種は「ヤマモミジ」や「出狸々」が適します。庭木等で取り木する場合、六月に、樹皮を二〜三cm幅に環状剥皮して形成層を残さず削り取り、湿った水ゴケを当



▲図6

ててビニールで包み込みます。水ゴケに適湿を保ち、発根すれば今月に切り離せます(図六)。

③ 実生苗を作るなら

砂が多い排水の良い土を、深さ五〜十cmの浅鉢に入れて三cm間隔に今月、まきます。覆土は五mm程します。乾かさないうちに低温に遭わせ、四月頃から発芽させ、一年後に植え替えます。

(二) 植え付け

三月に、芽が動き出す前に植えます。太幹の場合は、一年前に根回したものを、土ごと大きめの素焼き鉢等に鉢上げます(図七)。

苗木の場合は、素焼き鉢にゴロ土を敷き、細目の桐生砂にピートモスを三分の一ぐらい混ぜた用土等で植えます。根巻きを除き、長い根を切り詰め、根を八方に広げ



▲図7

幹の基部をやや高めに植えます。

取り木を切り離した場合は、必要に応じて剪定し、倒れないように発根部分を埋めて鉢植えします。

(三) 剪定の基本



▲図8

ないようにします。

○おわりに

フジの挿し木一年目と、モミジは七月から九月の彼岸頃まで、昼間は遮光をして涼しく管理します。一般に、フジは日によくあてて栽培し、発育の良い鉢は七月上旬頃から八月にかけて腰水法で生育を抑え、花芽形成を促進します。

施肥は、フジは花後に、モミジは三〜七月と九月に適宜行います。冬期は双方、防寒対策をします。